南出弁護士 コロナワクチンは殺人ワクチン、接種を直ちに中止を

ビル・ゲイツ発言 人口抑制を目的に 人口を10%～15%予測数値

南出弁護士

日本ホメオパシー医学協会のコングレスで来賓講演する南出喜久治弁護士。同弁護士は子宮頸がんワクチンの訴訟を起こし、さらに今回のコロナワクチンは殺人ワクチンとして接種を直ちに中止させるために東京地検特捜部に菅義偉内閣と岸田文雄内閣の内閣総理大臣と厚生労働大臣らを殺人及び殺人未遂等で刑事告発した。その南出弁護士のメッセージを紹介する。

私は、幼くして両親とも病気で寝たきりが多い生活が続いたことから、家業の風呂屋を継ぐことになり大学に行けなかった（行かなかった）ことで、大学の法学教育を受けなかったことが幸いとなって、思考の自由を妨げられることなく独学することができました。

そのお陰により、弁護士になる前から、占領期に制定された日本国憲法が憲法として無効であるとの理論的結論に到達していました。

そして、親の介護の現実から医療には大きな関心があり、さらに、憲法問題だけでなく、戦後の教育や宗教、経済、文化などあらゆるものに対して疑問の目で見つめてきました。特に、環境問題や薬害問題、抗生物質、向精神薬や食品添加物の弊害など、現在注目されているほとんどの課題についても、既に自覚していました。

それは、弁護士になってからも全く変はらず、より純粋に先鋭化してきました。特に、ワクチン問題は、最も大きな関心を持っていました。

私が平成22年から取り組んだ子宮頸がんワクチンの危険性の問題は、今回の武漢ウイルスワクチンの危険性の問題の歴史的背景と科学的根拠を考察することにおいて極めて有益なものでした。

ワクチンは効いたというのは、亡・安保徹先生の言葉でしたが、由井寅子先生とのご縁で安保先生と何度かお会いして、直接にそのお考へを聞き、「子宮頸がん予防ワクチンの危険性」を平成22年7月23日に國體護持塾のホームページで発表した際に、安保先生から直接に激励の言葉を戴いたことを今も忘れることができません。

子宮頸がんワクチンの危険性については、その1か月前の同年6月23日に、福岡県大野城市にあるロイヤルチェスター福岡で開かれた集会に出席して、私が緊急提言として発言したことが嚆矢でした。それから四面楚歌の戦いが始まったのですが、安保先生の激励を受けたことで、戦い続けることの志と勇気を強くすることができ、今日の武漢ウイルスワクチンとの戦いに果敢に挑むことができたのです。子宮頸がんワクチン問題について研究し続けてきた経験があったために、今回の反ワクチン訴訟の訴状や準備書面のすべてを専門家の誰にも頼ることも無く書き上げることができました。

今回の訴訟は、ワクチンのすべてを歴史的にも全否定する主張をしています。ワクチンは免疫学の邪道であり、利権にまみれる宿命を背負ってきたからです。

私が子宮頸がんワクチンの反ワクチン運動を展開することになった契機は、ビル・ゲイツ発言でした。

彼は、この年（平成22年）に「ゼロへのイノベーション」（Innovating to zero!）という演題の講演で、「まずは人口です。現在、世界の人口は68億人です。90億人程度まで増加します。しかし、新ワクチンや保健医療、生殖関連で十分な成果を収めれば、おそらく10%から15%抑えることができるかもしれません。しかし今は、増加率を1・3と見ています」と発言し（https://www.ted.com/talks/bill_gates/transcript?language=ja）、同年1月のダボス世界経済フォーラムにおいても、開発途上国の子供向けに感染症ワクチン開発（子宮頸がんワクチン含む）に今後10年間に100億ドル（約1兆円）規模の投資を行うと発表し、同年2月にも、ビル・ゲイツ氏の傘下にあるビル&メリンダ財団を通して世界中にもつとワクチンを送り込み、新たなワクチンや医療、生殖健康サービス（要するに中絶推進）を本当にうまく使へば、世界の人口を10%から15%程度は減らせるとの希望的予測を発言したことである。以下において、これらワクチン等による人口削減計画に関する発言をしたからです。

ビル・ゲイツ発言で述べられたワクチン接種などによる10%から15%程度の人口減少という数値は、平成22年3月2日付け「Risk of miscarriage with bivalent vaccine against human papillomavirus (HPV) types 16 and 18: pooled analysis of two randomised controlled trials」という調査報告などを踏まへての予測数値ではないかと考えられますが、このようなワクチン開発は、主にアジア、アフリカなどの発展途上国の人口抑制を目的としたもので、形を変えた「優性学思想」の実践であり、そのためにスクワレンなどのアジュバントを添加した不妊効果のあるワクチンを世界にばらまくのです。避妊への期待と不妊の恐怖とは紙一重です。避妊への期待と必要性という人々の関心に便乗して、永久不妊へと誘うことはたやすいことになります。

（5面につづく）

第23回JPHMAコングレス大会長の挨拶

ZENホメオパシー 日本、世界を救う

日本ホメオパシー医学協会会長 道繁 良

第23回JPHMAコングレスの大会長を務めさせていただきます道繁と申します。先日、新たに会長に就任し、初めて大会長として関わらせていただきます。

日本ではコロナの感染拡大が騒がれる状況が依然続き、そのような社会情勢に合わせてオンライン参加も可能な形で、CHom東京校、大阪校をライブ会場として開催します。

オンラインでご参加いただける、このコングレスは文字通り世界のどこからでも、日本最大のホメオパシー学術大会をご覧いただける貴重な機会となります。

私たちJPHMAでは、このような方法をすでに3年前から取り入れ、コロナ禍の影響下でも、「どうすればできるのか?」を常に考えて、最善の解答を導き出してこられた由井名誉会長の重要トピックはなんといっても由井名誉会長よりお話いただきます、秋冬なく続けられてきたのです。

活気あふれる大会に

この歴史を背負って、また今年も新たに日本のホメオパシーの歴史を刻む、活気あふれる大会になるようJPHMA理事をはじめ、CHomの皆様、会員の皆様のお力をお借りして作り上げて行きたいと思います。

今年のコングレスの最重要トピックはなんといっても由井名誉会長よりお話いただきます、秋冬以降に懸念される食糧危機、金融危機、第二のパンデミック、という3つの危機が重なることで カオス状態になることが予想され、そのような中でどのようにすれば私たちは生き残れるのか?という病気の治療以前の、私たちの命を維持するために必要不可欠なことです。

また国内来賓発表として井上正康大阪市大医学部名誉教授、南出喜久治弁護士にご登壇いただきます。日本だけが世界と逆行し、今もコロナ脳によるマスク着用をつづけ、世界で売れ残ったワクチンの処理場として大量にワクチンを買わされ、不必要なPCRを続けて、私たちの税金がどんどん海外の企業に吸い上げられている現在の問題を止めるために、コロナ禍で早々から問題提起をして、全国各地を廻られ危険なのはコロナではなく新型コロナワクチンのほうであるということを伝え続けておられるお二人の方のお話を伺うことで、世界的茶番劇に終止符を打ち、また偽のワクチン神話が私たちの子孫に伝えられないようにすることは大変重要であると考えています。

海外来賓は2人

また海外来賓として発表いただくのはロジーナ・ゾンネンシュミット博士とトレバー・ガン氏が決定しています。

海外の現在の新型コロナ、サル痘、マールブルグ熱等の感染状況やこれらに対する海外のホメオパスたちの取り組みをお聞きすることで、私たちが日本で感染拡大前から、病理を知り、どのようにして免疫を高めて備えられるのかを事前に準備できることになります。

数々の治癒症例を

そして例年通り、私たちJPHMA認定ホメオパスたちが、由井名誉会長から学んだZENホメオパシーを駆使して日々研鑽してきた成果である数々の治癒症例を両日にわたって発表します。

本大会は、これから起こる危機への備えを知り、現在進行中の日本が抱える問題を知り、さらにZENホメオパシーが今後の日本、ひいては世界を救う可能性を秘めていることをご覧いただける充実した内容となります。

ぜひ皆様、ご家族ご友人、お誘いあわせの上、ご参加いただけますようよろしくお願い致します。

第23回JPHMAコングレス大会長 道繁 良